

1. 令和4年度予算について

収益的収支（水を作って配るための収支）は、収入（税込）19億1,600万円、支出（税込）18億6,800万円、利益4,800万円の見込みです。

資本的収支（施設を作るための収支）は、収入（税込）5億5,700万円、支出（税込）16億4,400万円、不足額10億8,700万円は損益勘定留保資金等で補てん予定です。

2. 畔地浄水場の運用について

畔地浄水場について、浄水処理施設能力（76,000m³）に対しての1日平均約2万m³の浄水を各地域の配水池に送っています。稼働率は約3割、年間を通じて最大でも4割程度の稼働率にとどまる量です。これは、現在の給水規模に対して施設が過大であることを示しています。

畔地浄水場施設規模の課題を解決するために、令和3年4月より2系列交互運転を1系列連続運転へ変更して経費削減に努めております。

経費削減について、浄水場の2系列を1系列停止させた電気量は、令和2年4月～12月の使用量は585,279Kw、令和3年4月～12月は563,528Kw、△21,751Kwの削減となりました。

機器の更新・修繕を令和3年度はろ過砂の入替を行い、令和4年度は濃縮槽搔寄機等の更新を行う予定にしており、停止中の2系列より使用できる部品を再生利用して1系列の修繕材料として修繕費の削減を行います。

3. 非常用水源整備について

南魚沼市では昨年の市報水道特集でもお知らせしましたが、従来の「畔地浄水場一括浄水方式」から事業方針を変更して、非常用水源を確保して「井戸水等による地域別水源方式」に向けた整備を実施しています。

将来は魚野川の東西を6ブロックに分け、非常用水源を整備して常用化することで災害時の断水を回避します。また、畔地浄水場の更新費用を抑制し、施設規模も現在より縮小することが可能になります。

非常用水源の整備はポンプ動力費の負担が大きい塩沢地域から進めており、現在は上田、舞子、石打のさく井工事は完了しました。令和4年度では非常用水源利活用の検討委託を行いながら、引き続き、稼働に必要な電気設備や管路整備を進めていきます。